

くずし字マスターへの道

展示解説&解答編

「読んでみたいけど難しい…」と敬遠されがちな古文書、そしてくずし字。

でも、くずし字を知らなくても内容がわかる資料は数多くあります。

今回は、超入門編としてわかりやすい資料を展示します。読み解きの楽しさをぜひ堪能してください。



年未詳「商売往来絵字引(往来物)」勝見宗左衛門家 当館蔵 B0037-00709

年未詳「けし人形 上巻」桜井市兵衛家文書 当館蔵 N0055-00871

おとぎ話のコラボレーション …「けし人形 上巻」



江戸期の草双紙（大衆的な絵入り小説）のひとつです。立身出世を志す男（豆右衛門）がだいづ権現から小さくなる玉をもらい、お供を引き連れ、行く先々で活躍するという奇想天外な話です。ストーリーは一寸法師を思わせるものが主体ですが、桃太郎の内容（川で洗濯している老婆に拾われる、お供を連れての鬼退治）や、舌切り雀の内容（爺が舌を切られた雀を探しに行く）、国姓爺合戦の内容なども取り入れており、ユーマアあふれる物語になっています。

（「けし人形 上巻」部分 桜井市兵衛家文書 N0055-00871）

超入門編

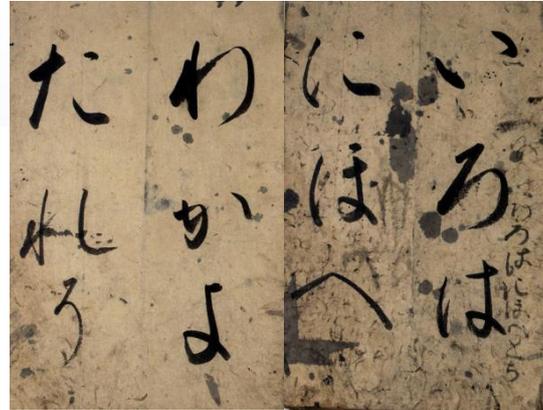
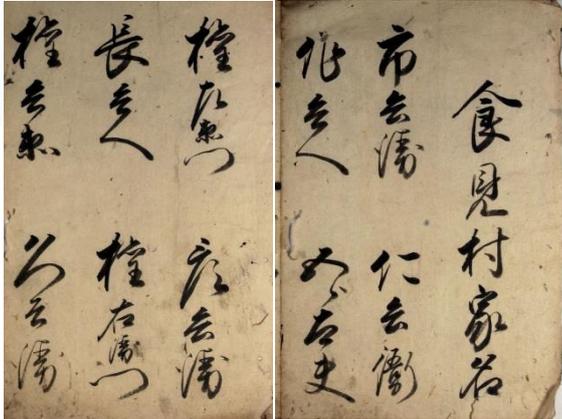
福井県文書館 FUKUI PREFECTURAL ARCHIVES

くずし字マスターへの道

-超入門編-

◎寺子屋で使われた手本・手習

若狭食見に残された手習(文字の習得)用の資料

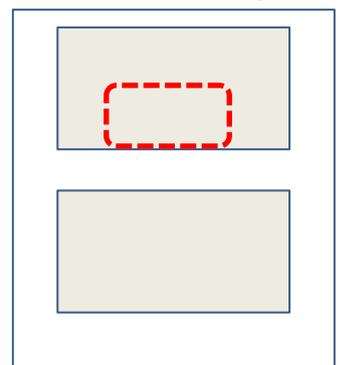


「御手本(手習、いろは・数字、「名頭之事」「親戚字尺」「相庭之事」など)」
桜井市兵衛家文書

食見村家名
市兵衛 仁兵衛
作兵へ 五郎太夫
権左衛門 彦兵衛
長兵へ 権右衛門
権兵衛 久兵衛

いろは
にほへ
わかよ
たれそ

(展示場所) 入口

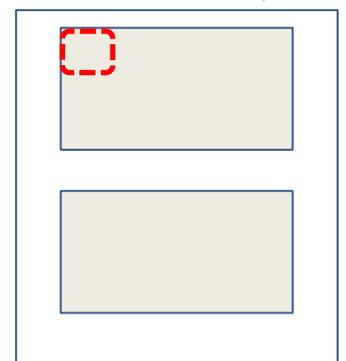


読みの手本(小倉百人一首)

「群玉百人一首宝箱 全」
桜井市兵衛家文書

在原業平朝臣
千早振
神代も
きかず
た
つた
川
からくれな
水くゝると
ハ

(展示場所) 入口



くずし字マスターへの道

-超入門編-

○挿絵が豊富な資料

江戸時代の草双紙(絵本)

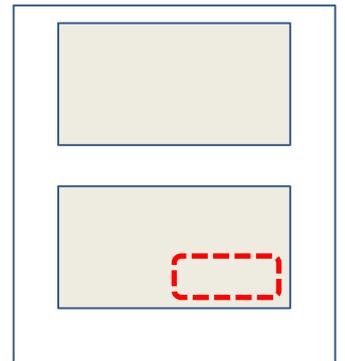
文書館からのお題の解答 (外側展示パネル)



「けし人形 上巻」
桜井市兵衛家文書

ふねのかかりにのつたが
ぐれくして
きみがわるい

(展示場所) 入口



さても
よいうりが
ながれて
きた
もふ一ツ
こい
ぢいに
くわそ

やつはり
馬がまし
じゃ

おとぎ話

(浦島子…浦島太郎)



「絵本故事談 三」
桜井市兵衛家文書

浦嶋子

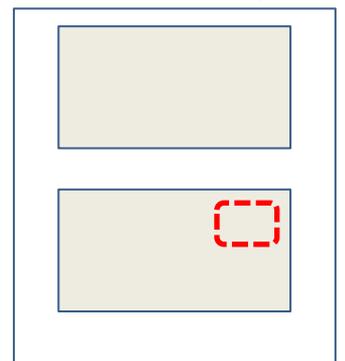


雄略天皇二十二年秋七月、丹州餘社の郡管川の人
水江の浦嶋か子といふ者船に乗て釣を垂る、遂に大なる

亀を得たり、化して女となり、浦
嶋か子感じて夫婦となる、相伴
て海に入、蓬萊山に至り三

百四十餘年を歴て…(以下略)

(展示場所) 入口



外側展示パネルの解答



イラストも参考にしてください。
あれ、文書館にあるものも…!?

『商売往来絵字引(往来物)』

附見宗左衛門家文書(当館蔵) B0037-00709



弁当
襖

屏風
鮑

箆筒
蒲団

目鑑
鯉節

菓罐
德利

行燈
鉄

新米
脇差

包丁
木綿

珊瑚
海老

一年のうち 春は 阿
たさかに 夏は あつ
く 秋は ちかく
冬は さむし これを
四きといふ

うみを渡るふは 船の中ふ
磁石を備ふべし ふねはよ
く 數千里はしるといへど
も その方角を わかたされ
が おもふところふ いたり
がし 磁石は つねに北を
指して 餘の三方を たやす
くしらすものなり

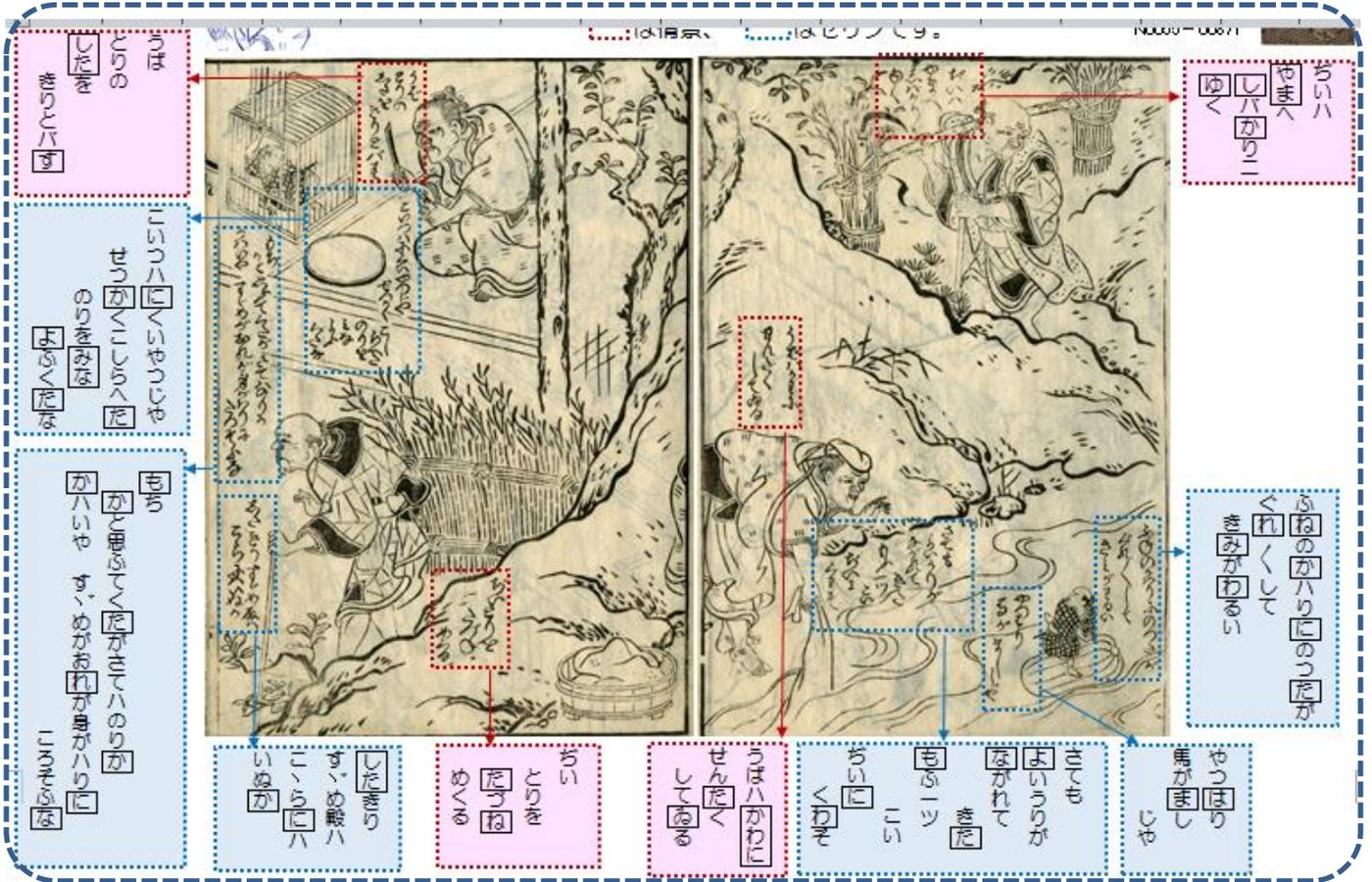
地球儀、
この世界も形ま
どかふして、まり
のごとし、そのお
もては 水と陸と
小分かち陸のう
ちふちあまの
國ありて、わが身もまたそこ
に在
めり。これにかたどりて、世界國々
の名どころを、地球儀といふ
るものを、地球儀といふ。

一年のうち 春は **あ**
たさかに 夏は あつ
く **あ** 秋は **あ** ちかく
冬は さむし これを
四きといふ

うみを渡る **は** 船の中 **ふ**
磁石を備ふべし **ふ** **ね** **は** **よ**
く 數千里 **は** **し** **る** **と** **い** **へ** **ど**
も その方角を **わ** **か** **た** **さ** **れ**
は **お** **も** **ふ** **と** **こ** **ろ** **ふ** **い** **た** **り**
が **し** 磁石は **つ** **ね** **に** **北** **を**
指して 餘の三方 **た** **やす**
く **し** **ら** **す** **も** **の** **な** **り**

地球儀
この世界 **は** **形** **ま**
どか **か** **ふ** **し** **て**、**まり**
のごとし、そのお
もて **は**、**水** **と** **陸** **と**
こ **の** **ち** **は** **水** **と** **陸** **と**
こ **の** **ち** **は** **水** **と** **陸** **と**
國ありて、わが身もまたそこ **に** **在**
めり。これ **に** **か** **た** **ど** **り** **て**、**世界** **國** **々**
の名どころを、**地球** **儀** **と** **い** **ふ**。
るものを、**地球** **儀** **と** **い** **ふ**。

外側展示パネルの解答



平氏を攻む時に、平家十萬の兵をしたがへて一の谷の要害にたてこもり、義経後の山より險をおりて其思ひよらざるを撃つ。安徳幼帝を供奉し逃て海西二奔り、又讃州八嶋を保つ、義経追討使の宣旨を賜て、猝に八嶋を襲ふ、平軍其大兵ならんことを懼て海上に逃去、其後志度壇の浦所々の合戦に打勝て帰る、頼朝權原か讒を信して鎌倉に入る事を許さず空く京に帰る時に、東より討手の大軍来ると聞て鎮西に赴く、大物浦俄頃迅風起て船飄蕩す、幸に免て吉野山に匿、貌を変して北陸道を経て再奥州秀衡が館に赴く、文治年中終に泰衡か為に弑せらる、年二十七

平氏を攻む時に、平家十萬の兵をしたがへて一の谷の要害にたてこもり、義経後の山より險をおりて其思ひよらざるを撃つ。安徳幼帝を供奉し逃て海西二奔り、又讃州八嶋を保つ、義経追討使の宣旨を賜て、猝に八嶋を襲ふ、平軍其大兵ならんことを懼て海上に逃去、其後志度壇の浦所々の合戦に打勝て帰る、頼朝權原か讒を信して鎌倉に入る事を許さず空く京に帰る時に、東より討手の大軍来ると聞て鎮西に赴く、大物浦俄頃迅風起て船飄蕩す、幸に免て吉野山に匿、貌を変して北陸道を経て再奥州秀衡が館に赴く、文治年中終に泰衡か為に弑せらる、年二十七

※ 読点を追加

資料（資料群名「資料名」）	年月日	資料群番号－ 資料番号
<p>「いろは」から時事ネタまで</p> <p>食見（現、若狭町）に残された江戸後期の資料です。寺子屋で手習いの手本として使われました。折り跡があり、横に置き使用したと考えられます。題材となったのは、「いろは」や数の単位、身近な地域の人名・家名・村名などです。変わったところでは、時事的な話題なども取りあげられています。（桜井市兵衛家文書「御手本（手習、いろは・数字、「名頭之事」「親戚字尽」「相庭之事」など）」、他数点）</p>	1829年（文政12） 他	N0055-00729 他
<p>江戸の“ちはやふる”</p> <p>江戸時代、女子の教養に必要な知識として重視された百人一首は、多くの女子用教科書（往来物）や事典（節用集）に収載されました。この資料もその中の一つです。資料上部では、「手習の仕用の事」として手習い（文字の習得）の上達法について解説しています。（桜井市兵衛家文書「群玉百人一首宝箱 全」）</p>	1713年（正徳3）	N0055-00922
<p>山高きがゆえに貴からず…</p> <p>「実語教」「童子教」は平安から鎌倉期に成立した道徳用の教科書です。江戸期に庶民に広く流布し、寺子屋で読みの教材として使われました。また、国名・山河・不成就日（何事も成就しない日）など、一般教養的な知識も併記されています。（桜井市兵衛家文書「実語教童子教 全（往来物、勝尾屋六兵衛）」）</p>	年未詳	N0055-00924
<p>めざせ!! 商人への道</p> <p>商売に関わる道具や商品の名称などをわかりやすく理解させるための絵字引です。挿絵と簡単な紹介文が358項目にわたって続きます。魚介類の紹介では、鯨の百尋（小腸）のように現代ではあまりお目にかかれないものも紹介されています。（勝見宗左衛門家文書「商売往来絵字引（往来物）」）</p>	年未詳	B0037-00709
<p>明治時代でもくずし字</p> <p>明治初期の教科書です。「阿」、「尔」、「里」、「可」などのくずし字が、その当時でも使われていることがわかります。1900年（明治33）の小学校令施行規則改正以降、現在使われている48種類の平仮名が確定し、それ以外は変体仮名と呼ばれるようになります。（山内秋郎家文書「小学読本 初等科 巻五」）</p>	1883年（明治16）	X0142-00969
<p>竜宮城ではなく〇〇山</p> <p>中国や日本の故事を紹介した江戸中期の資料です。題名が示すとおり、浦島太郎のような話ですが、一般的なものとは異なる部分（亀が変身した女性と結婚する、竜宮城ではなく蓬萊山に行くなど）も見られます。（桜井市兵衛家文書「絵本故事談 三」）</p>	1714年（正徳4）	N0055-00802
<p>覆水重ねて盆に収らず</p> <p>故事成語「覆水盆に返らず」の由来について紹介した江戸期の資料です。復縁を願う元妻に対して立身出世を果たした夫（太公望羌尚）は、こぼした水を元に戻すことを命じます。元に戻れないことを悟り、死を選ぶ妻。妻は夫に尽くすべき、という江戸時代の女性観もうかがえる資料です。（吉川充雄家文書「絵本写宝袋（巻5-6）」）</p>	年未詳	C0037-00652
<p>江戸の着物コレクション</p> <p>104種類の着物のデザインを掲載した江戸中期の資料です。挿絵と解説で模様や色、形を紹介しています。「ゆふぜん」や「かうりん」という語は、17世紀末から18世紀前半にかけて京都を中心に流行した友禅模様や光琳模様のことを指しています。（吉川充雄家文書「雛研都商人（和服柄画集）」）</p>	1715年（正徳5）	C0037-00681
<p>そうだ、京都へ行こう!!</p> <p>京都の寺院や名所について挿絵を中心に紹介した江戸後期の資料です。さすがは日本の都、多くの場所が掲載されており、全6巻に及びます。「金閣寺」「銀閣寺」といった通称を使うなど、庶民向けのガイドブックという意味合いが強いようです。（加藤竹雄家文書「都名所図会 一」）</p>	1780年（安永9）	A0052-02003
<p>水の中で火を灯す方法</p> <p>手品とそのタネ明かしを紹介している江戸中期の資料です。水の中で火を灯すための道具として、樟脳（しょうのう）と松脂（まつぎ）は、はな紙を使っています。さあ、どうすれば火は灯せるのでしょうか？（坪田仁兵衛家文書「珍曲たはふれ草 上」、「和国たはふれ草 下」）</p>	年未詳 1795年（寛政7）	C0005-00418, 00419